未来世代礼拝　小学生　(高)　礼拝説教２月①

真の父母様生涯路程③「試練に打ち勝ったお父様」

今日のお話は「試練に打ち勝ったお父様」です。

真のお父様は、神の国をつくるために、伝道を始められました。

韓半島には、キリスト教を信じる人たちが沢山いました。そのような人たちを、クリスチャンと言います。神様は、韓半島に多くのクリスチャンを準備されましたが、クリスチャンは、真のお父様を信じることができませんでした。

クリスチャンが真のお父様をメシヤとして受け入れ、神様の国をつくる為に、共に歩むことができれば、短い期間で地上天国をつくることができたかもしれません。

ところが真のお父様は、たった一人で、神の国をつくるために出発しなければなりませんでした。

ある日「38度線を越えて行きなさい！ 北の方にいる神様に仕える人々をとりもどしなさい！」と、神様の啓示がありました。そして、神様の声に従って北に向かったのです。

伝道活動をしていた真のお父様は、「神様はいない」と考えている共産党に捕まってしまいました。殴られたり、蹴られたり、眠ることすら許されない苦しみを受けられて、外に放り出されました。たくさんの血を吐かれて本当に死んでしまうかと思うほどでした。

そんな中で、「天のお父様、心配なさらないでください。私はまだ死にません。こんなふうにみすぼらしく死んだりしません」と、祈られました。完遂しなければならないことが山のようにあり、拷問ごときに屈服して同情をかう程度のいくじなしではないというのです。

こうして、生死の境を越えて再び伝道をされるようになった真のお父様でしたが、またもやクリスチャンの迫害にあい、共産党に捕まってしまいました。今度は興南の収容所という所に送られました。そこでは、朝から晩までつらい仕事をさせられました。

さて、興南の収容所とは一体どんな所だったのでしょうか？　そこでは、硫酸アンモニウムという肥料の原料を袋に詰めて運ぶ仕事をしました。硫酸アンモニウムは、皮膚につくと痛みやかゆみがおこります。

１袋40Kgの袋を10人一組で1300袋、１日に一人あたり130袋も運ぶのですから、体はとても疲れました。真のお父様は、それを、先頭きって一生懸命にされました。高熱になっても、一日も休みませんでした。もし休んだら、誰かがその分をやらなければならないからです。

それだけ仕事をしても、ご飯は１日に小さい茶碗に２杯もありませんでした。スープは大根の葉が入った塩水でした。それで、ごはん一粒のために喧嘩もおこりました。

ある時は、食べながら死んでいく囚人の口の中から残っているご飯を掻き出して食べるという地獄のような光景もあったというのです。

そのような中でも真のお父様は最初の2、3週間、少ない食事の半分だけを自分が食べて、残りの半分を他の囚人に分け与えました。真のお父様は、聖書の中の「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」（マタイ4・4）というみ言を実践され、与えた半分のご飯を嬉しそうに食べる人の姿を見て、喜ばれました。

また、ある時は、真のお父様のお母さんが、服と食べ物を差し入れに来られました。

しかし、それを自分のものとするのではなく、お母さんがくださったズボンを他の囚人にあげ、また「はったい粉」も、他の囚人たちに分けてあげました。囚人たちは、お父様を尊敬し、朝になると競うようにお父様のところに来て挨拶をしました。

真のお父様は、苦しい時にこそ、人を愛されたのです。

ために生きる愛こそが真の愛であると、真のお父様は実感されました。

その後、真のお父様は、2年8か月後、アメリカやイギリスなど世界の16か国の国連軍が爆撃することによって、興南から解放されました。

真のお父様は、神様の願いを果たす道を行くことを決意してから、あらゆる試練を通過されました。でも、その度にその様な苦労の道を行かせなければならない親なる神様のことを思い、慰めていかれました。

私たちも真のお父様のように、苦労や試練があったとしても、悲しみの神様を慰めていくことのできる私たちになれるように頑張りましょう！